教職員と市民でつくる人権教育情報紙

はじけるこころ

Vol.50

まいにち学校 まいにち街 の中 こどもの笑顔につなげる

編集・箕面市人権教育推進会議
発行・箕面市教育委員会人権施策室
TEL：072－724－6921
E-mail：edujinken@maple.city.minoh.lg.jp

令和３年（2021 年）２月

新しい生活様式、以前と違う日常・・・。がんばっています！コロナに負けない！

この情報紙は、保育所・幼稚園・小中学校の保護者をはじめ、広く市民のみなさんに、身近な人権教育の話題を知っていただくため、市民参加方式で編集したものです。

ご家庭で子どもさんと、あるいはご近所や職場のかたと、こうした話題にふれて、語り合っていただければと思います。

第二中学校　生徒会制作 寸劇動画 「新型コロナウイルス感染症 ～偏見・差別をなくそう～」

令和2年11月18日、第二中学校の生徒会で制作したある一本の寸劇動画が全校生徒に向けて放送されました。新型コロナウイルス感染症に関する偏見や差別防止を訴えるテーマで制作され、全校生徒が偏見や差別について考える機会となりました。この動画にこめた生徒会の皆さんの思いをインタビューしました。

●どうしてこの動画を制作しようと思ったのですか？

「新型コロナウイルス感染症について何も知らないことが一番怖いと思いました。他の人にも正しい知識を持ってもらいたいと思いました。」

「何を伝えるかって考えたときに、差別をなくせないかなって思ったんです。ネットニュースでは、海外では医療従事者への拍手の出迎えの様子などが紹介されていましたが、日本は誹謗中傷ばかりでつらかったです。」

もくじ

第二中学校　生徒会制作 寸劇動画 「新型コロナウイルス感染症 ～偏見・差別をなくそう～」 1
第六中学校 新型コロナウイルス感染予防をテーマに「はたらくこと」に挑戦！ 3
萱野小学校　授業実践 「新型コロナウイルス感染症を考える」 4
南小学校　オンライン開催 「あすチャレ！ ジュニアアカデミー」 5
司書コーナー 「学校図書館ブログを通して、子どもたちに伝えたい本の世界」 5
編集後記 6

●動画にはどういうメッセージを込めましたか？

「トイレットペーパーがなくなるとか正しくない情報が色々ありました。間違った情報や考え方から偏見が生まれることもあるので、自分で判断することができるようになってほしいと思いました。」

「どうやったら伝えたいことが伝わるかと考えました。差別を止めようっていうことを一番伝えたかったんです。」

「テーマを偏見や差別と決めてから、日本や世界で起こっていることを二中の生徒に知ってほしいと思いました。」

「寸劇をつくる前に市内の学校で陽性者が出て、箕面市でも偏見や差別が起こりかねないと思いました。」

「自分たちにとってコロナ差別は身近な問題でした。偏見や差別を知らないうちにしてしまうのは怖いことだと思って、自分の行動ひとつひとつに責任を持ってほしいなと思いました。」

「以前とは違う生活になって色々不便なことがあるし、生きにくい世界だと思います。でもストレスを誹謗中傷で発散せずに、支え合って差別のない世界になってほしいと思いました。」

●実際に動画制作に取り組んでみて、どうでしたか？

「長いせりふを何回もやり直しました。20回くらいですかね。」

「ごみ収集の仕事をしている人の役を演じましたが、実際には何カ所も収集にまわっておられて、新型コロナウイルスに感染したらという不安の中で、この仕事を続けているってすごいなと思いました。」

●制作する前と後で自分自身の考え方や行動に変化はありましたか？

「つくるのには情報が必要なので、知識をたくさん得ることができました。」

「自分は差別される役だったので、普段、自分が差別する側に知らないうちになっていないかを考えるようになりました。」

「役で演じた人の立場の気持ちを考えました。偏見を持つ側の役をしたのですが、相手に対して偏見のある言葉を言う人というのは、きっとそこまで深く考えてないんだろうな、という感じで演技をしました。」

「新型コロナウイルスのニュースばかりで、これまでは流して聞いていました。差別や偏見のことを詳しく知ることができて、これからはニュースをしっかり聴こうって思いました。」

「差別をする人は無意識に差別しているという設定にしました。人として悪い人間だとかではなく。もしかしたら自分も無意識に差別をしているかもと思って気をつけようと思いました。」

【あらすじ】

弟が新型コロナウイルス感染症陽性になった姉Ａさんと弟の友人Ｂさんがごみ置き場で出会う。そこへごみ収集業者のＣさんが到着するが、二人組の通行人から「ごみからコロナに感染するってネットにのってた」「近寄らないようにしよう」という話し声が聞こえる。弟の友人ＢさんはＣさんとすれ違うとき、あからさまに距離を取った。その行動を見た姉Ａさんは行動が間違っていることや弟が陽性になったことを伝える。Ｃさんからも不安な気持ちや努力、応援してもらえたことなどが語られる。ふたりの話を聴き、Ｂさんは自分の取った行動について「正しく情報を判断すること、人の気持ちを考えること」の大切さに気づく。

生徒会の皆さんは、一人ひとりがしっかりと自分の考え方を持って、冷静にこのコロナ禍の状況を捉えていました。「偏見やうわさに流されないよう、正しい情報を選択し、行動することが大切なのだ」という強いメッセージが伝わってきました。

取り組みは、箕面市のホームページでも紹介されました。

第六中学校
新型コロナウイルス感染予防をテーマに「はたらくこと」に挑戦！

第六中学校では、コロナ禍の影響により中止となった職場体験のかわりに、「何かできないか」ということで、新型コロナウイルス感染予防グッズを製作しました。この取り組みについて、辻村美代子教諭に紹介していただきました。

＊

例年、中学2年生で実施される「職場体験」を中止するという知らせを聞き、とても残念な気持ちになりました。2年生の総合的な学習は、「はたらくこと」がテーマです。考えた結果、「学校での実践指導ではどうだろう?」「行くのがダメなら、来てもらおう」ということになりました。子どもたちの安全を守り、安心できる学校内での職場体験の実施に向けて、学年内で話し合い、協力していただける企業を探しました。

一社目は、たまたま観たニュース番組がきっかけでした。「一回目の緊急事態宣言でお客さんが全く来なくなってしまった大阪市内の焼き肉店が『フェイスシールド』を作成し、近隣の病院に寄付をした」という内容でした。早速、お店に連絡をしました。お店からは、3Dプリンターも一台貸していただき、相談にものっていただくなど全面協力体制で引き受けてくださいました。

二社目は、箕面市の特産品である止々呂美の「実生（みしょう）ゆず」を使って、さまざまな商品を作っている企業です。「ゆず由来の消毒液」という新しい商品開発に取り組むところで、箕面の子どもたちのため、協力を惜しまないと引き受けてくださいました。

そして、感染予防に欠かせない「マスク」製作には、六中に長く勤務されていた家庭科の先生に協力していただきました。

感染予防のために、「フェイスシールド」「ゆずの消毒液」「マスク」は必要であるということを、子どもたちもよく理解していました。保護者の皆さまにもこの取り組みについて説明しました。予測のつかない変化の激しいこれからの社会の中で、生き抜いていかなければいけない知恵をつけることも「はたらくこと」のテーマと思い、実施しました。

11月13日～15日の3日間の取り組み期間中、子どもたちは学校内で、イキイキと輝いていました。各製作部門では指導していただいたかたがたからの講話もありました。体験と同時に、身近な大人以外の人と触れ合うことで、「はたらくこと」について考えるための大きな刺激をもらいました。

なお、製作したフェイスシールドを市立池田病院に寄付したところ、池田市から感謝状をいただくことになりました。

☆子どもたちの感想☆

〈フェイスシールド製作部門〉

仕事は他の人との協力が重要だということを実感しました。私たちの日々は、たくさんの人の支えによってできているということを意識するようになりました。

〈ゆずの消毒液製作部門〉

お話が、とてもおもしろかったです。ゆずの性質の中で『フィトンチッド』という液の説明がありました。敵に攻撃されたときに発射する液だそうです。また、ゆずの花言葉は『健康美』といわれ、美容効果が高いのです。葛飾北斎は独学でゆず酒などを学び、約90歳まで生きたと言われるほど、ゆずの力がすごいのだと教えていただきました。

〈マスク製作部門〉

最初はただ「たくさん作っていれば良いだろう」というような考え方で次々とマスクを作っていきました。でも、仕上がり具合を確認する中で、「やり直し」となり、僕たちはとてもショックで言葉も出ませんでした。しかし、その瞬間が「働くということ」を想像できた時でもありました。正式に働く前に、こういう失敗ができてよかったと思います。みんなで目標に向かうことの楽しさも知りました。みんながひたすら作業している姿も、とてもかっこよく見えました。

萱野小学校　授業実践
「新型コロナウイルス感染症を考える」

新型コロナウイルス感染拡大による一斉休校期間のあと、市内の小中学校では、新型コロナウイルス感染症にともなう偏見や差別について考える授業が行われました。取り組みについて、山形洋子教諭に紹介していただきました。

＊

分散登校に始まった２０２０年度、６月に子どもたちをむかえる際には、全校で新型コロナウイルス感染症について学年に応じた学びの機会を設定しました。不安や心配を抱えながら登校する子どもたちの様子も見受けられたので、安心して学校生活を送ることができるようにコロナ禍の中での新しい生活様式等についても学習しました。

さらに９月には、新型コロナウイルス感染症を理由とする差別や偏見を防止する観点でも授業を実施しました。安易な言動で誰かを傷つけたり差別したりしないよう、人の気持ちを考えて行動しようとする態度を育てることをねらいとしました。

６年生では、「感染症を理由とした友だちの心ない発言に傷ついたＡさんが流した涙」「職員が感染し、保育園の園長先生が周囲の人からエールの言葉を受けとって流した涙」の二つの出来事をもとに授業を構成し、プラスの言葉を大切にできる生き方について考えました。

☆子どもたちの感想☆

・コロナはいじめのもとにもなる。コロナで人がいじめられて泣くことがあったら注意したい。

・これから発言するときは、一回相手の立場になって「これを言われたらどんな気持ちになるか」を考えて発言するようにしようと思いました。相手が悲しむような言葉には気をつけようと思いました。。

・コロナや病気にかかりたい人なんているはずがないので、ひどい言葉をぶつけるのはまちがっていると、改めて思いました。医療関係者のかたや、嫌な思いをしてしまった人たちが、プラスに考えられる言葉をかけられる人がふえてほしいです。知り合いや友だちがコロナにかかってしまって、不安でひどい言葉を言ってしまうこともあるかもしれないけど、その立場が自分になったことを考えて行動してほしいし、自分もそうしようと思いました。

南小学校　オンライン開催
「あすチャレ！ジュニアアカデミー」

「パラリンピックやパラスポーツを題材に障害者の『リアル』を当事者講師から聞き、学び、一緒に考える」をコンセプトに実施される「あすチャレ！ジュニアアカデミー」に南小学校が応募しました。取り組みについて、廣田裕一教諭に紹介していただきました。

＊

南小学校では、「すてきな出会いのある学校」というスローガンのもと、子どもたちと様々なかたちとの出会いを大切にしています。昨年度はたくさんのゲストティーチャーをお招きして、子どもたちと楽しく学習してきました。しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、ゲストティーチャーを呼ぶ機会が制限されてきました。そこで12月18日に、日本財団パラリンピックサポートセンター主催のオンライン版「あすチャレ！ジュニアアカデミー」を本校４年生で利用させていただきました。共生社会実現に向けて、障害のある当事者のかたから学ぶ機会をもつことができました。講師は日本財団パラリンピックサポートセンター所属の伊吹祐輔さんです。

伊吹さんは、幼い時より車いすでの生活を送っておられます。「工夫することの大切さ」をテーマに子どもたちに駅での段差について、また野球をするときのことなど、具体的な場面を想像させながら、「どのような工夫で解決できるか？」を考えました。子どもたちは、「エレベーターを造る」「駅員さんに言う」「距離を短くする」「周りが合わせる」などの意見を出していました。さらに、パラスポーツの魅力について紹介していただき、工夫し努力を重ねて自分の可能性にチャレンジすること、できるかできないかではなく、楽しいか楽しくないかで考える大切さについて教えていただきました。

オンラインではありましたが、伊吹さんと子どもとのやりとりを交えながら進め、子どもたちにとってもすてきな出会いになったと思います。南小学校は今後もオンラインなどを活用しながら、様々なかたとすてきな出会いを続けていきます。

「あすチャレ！ジュニアアカデミー」ホームページ
https://www.parasapo.tokyo/asuchalle/junioracademy/

司書コーナー

「学校図書館ブログを通して、子どもたちに伝えたい本の世界」

昨年３月の休校から６月15日の通常授業再開まで、学校図書館に子どもの姿はありませんでした。これまで経験したことのない状況のなか、学校図書館として子どもたちに何かできることはないだろうか、と模索していたとき、ブログで本の紹介をしてみないか、と教育センターの先生から声をかけてもらいました。ブログ作成の知識がなく戸惑いながらも、学校司書全員で検討し、休校中の子どもたちに本の情報やメッセージを届けたいと意見がまとまり、５月に箕面市学校図書館司書連絡会のブログ「ようこそ　がっこうとしょかんへ」を始めました。毎月二回程度内容を更新しています。

今回は、ブログに掲載した『自立のすすめ　マイルール』（全七巻　辰巳渚／著　朝倉世界一／まんが）を紹介します。著者は子どもたちに、自分で自分にふさわしいルール（マイルール）を作ろうと呼びかけます。例えば「うそはいけない　本当のことを言う方が楽」という章では、うそをつく人の弱さを理解しながら、ごまかし続けることの難しさ、本当のことを言う方が結局は楽になれる、と述べています。著者は子どもの人格を尊重

し、いろいろな場面でこんなふうにしてみたらどうか、それはこんな考えに基づいている、自分にもこんな事例があったと語りかけます。いわば著者の哲学がぎっしり詰まった本なのです。残念ながら著者の辰巳さんは亡くなられました。文章と同時に朝倉さんの優しいまんがも魅力的で、学校図書館でよく読まれています。

（豊川南小学校司書　岸上奈美子）

『自立のすすめ マイルール』
辰巳渚／著　朝倉世界一／まんが
毎日新聞出版　２００８年

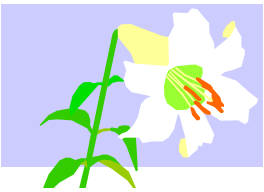
学校図書館　本の紹介ブログ
URL　https://blog.goo.ne.jp/yomouyomuzou

☆編集後記☆

新型コロナウイルス感染症は、私たちの日常生活を大きく変容させました。

感染症への不安や恐れ、無知からくる差別や偏見についての報道につらい気持ちになった人もいるでしょう。差別や偏見は決して許されるものではありません。

様々な活動が制限される中でも、学校では感染予防に努めながら、子どもたちや教職員がイキイキと学び、活動しています。子どもたちの姿は、私たち大人に大きな力をわけてくれました。



「はじけるこころ vol. 50」はいかがでしたか？

みなさんのご意見・ご感想をお聞かせください。下記の①～④の内容を、郵送、ファクスまたはＥメールにてお送りください。これからも人権教育に関心をもっていただける記事を掲載したいと思っておりますので、ぜひともお言葉をいただけることを編集委員一同お待ちしております。

記

①ご意見・ご感想、②お名前（無記名でも構いません）、③「はじけるこころ」の入手方法、④（「はじけるこころ」に掲載する場合がありますので）ご意見・ご感想掲載の可否について

〒562-0015　箕面市稲 1-14-5　箕面市教育委員会人権施策室
FAX ： ０７２－７２５－８３６０
Email : edujinken@maple.city.minoh.lg.jp